



## 主要な農作物の生育情報

平成22年度 第12号

(平成23年3月4日)

福島県農林水産部研究技術室



### 【麦 類】(3月1日現在)

昨年11~12月の気温は、やや高めでしたが1月は低温で経過し、2月に入り平年並みの推移となりました。農業総合センター各所の生育は、全般的に平年に比べ草丈が短く、茎数は本部(郡山)で少なく、浜地域研究所(相馬)では多い傾向となっています。また、幼穂形成始期は地域により傾向が異なり、平年と比べ本部の「きぬあずま」、「ゆきちから」は8日以上遅れ、浜地域研究所の「きぬあずま」は8日進んでいます。

3月上~下旬が幼穂形成期の追肥時期となりますので、窒素3~4kg/10aを基本として適正に追肥を行いましょう。

### 【野 菜】(2月21日現在)

#### 1 イチゴ

県北地方の促成栽培(夜冷育苗)は、1次えき果房が収穫中期~収穫終期、2次えき果房が着果~肥大期、3次えき果房が出蕾始めとなっています。促成栽培(ポット育苗)は、頂果房が収穫終期で1次えき果房が収穫開始、2次えき果房が出蕾開花~肥大始めとなっています。

病害虫は、うどんこ病、灰色かび病、ハダニ類、アブラムシ類の発生が散見れます。

須賀川地方の促成栽培(夜冷育苗)は、1次えき果房が収穫中期~収穫終期、2次えき果房が果実肥大~収穫開始期となっています。促成栽培(ポット育苗)は、1次えき果房が収穫中期~収穫終期、2次えき果房が果実肥大期となっています。

病害虫では、うどんこ病、灰色かび病、アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類の発生が散見され、ハダニ類の発生が増加にあります。

県南地方の促成栽培(ポット育苗)は、1次えき果房が収穫終期、2次えき果房が果実肥大~収穫開始期となっています。

病害虫ではうどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類の発生が見られます。

いわき地方の促成栽培(夜冷育苗)は、1次えき果房が収穫中期~終期、2次えき果房が着果~肥大期です。

病害虫ではうどんこ病、灰色かび病の発生は少ない傾向にありますが、ハダニ類の発生が継続して見られます。

#### 2 ニラ

須賀川地方では、10月20日前後に被覆を開始した2年株で、4番刈り収穫後半から終了となっています。11月上旬に被覆を開始した1年株は、3番刈りを終了しています。2月に入り1年株2年株とも葉幅が狭く葉色が淡くなってきております。また、病害虫では白斑葉枯病とネダニの発生が散見されます。

県南地方では、10月中旬に被覆を開始した2年株で、4番刈り収穫後半から終了となっています。

11月上旬に被覆を開始した1年株は、3番刈りを終了しています。いずれも株の充実不足により葉幅が狭い傾向にあります。また、病害虫では白斑葉枯病が少発しております。

## 【果 樹】

農業総合センター果樹研究所の予測によると、今後の気温が平年並みに経過した場合、モモ「あかつき」の発芽は3月30日頃で平年より4日遅く、ナシ「幸水」の発芽は4月6日頃で平年より3日遅く、リンゴ「ふじ」の発芽は4月1日頃で平年より3日遅いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右されやすいため、今後の気象経過に注意が必要です。

## 【花 き】

### 枝物花木

県中地方のヒガンザクラの促成栽培は、昨年より5日早い2月19日から出荷されています。

県北・県中地方のハナモモは、平年並みに2月末で出荷を終了しました。

須賀川地方のユキヤナギ促成栽培は、順調に出荷が行なわれており3月下旬まで続く予定です。

病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ  
<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部研究技術室 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukyu/seiikugijyutsujyohou.html>